

平成 29 年 第 14 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

平成 29 年 12 月 18 日 (月)

開会午後 1 時 00 分、閉会午後 1 時 30 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 鳥海 清司

2 番 山崎 弘一

4 番 藤重 佳代子

5 番 村上 美也子

教育長 渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長 山下 康二

教育次長 坪池 宏

教育企画課長 五十里 栄

生涯学習・文化財室長 菊池 政則

教職員課長 廣島 伸一

県立学校課長 本江 孝一

小中学校課長 金谷 真

保健体育課長 秀永 倫明

V 傍聴人数 0 人

VI 会議の要旨

午後 1 時 00 分、渋谷教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(平成 29 年 11 月 14 日開催の平成 29 年第 13 回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

渋谷教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 報告事項

(1) 臨時代理について (平成 29 年 11 月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件)

(2) 臨時代理について (平成 29 年 11 月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件)

教育企画課長から説明した。

(3) 平成 30 年 3 月高等学校卒業予定者の就職内定状況について (10 月末調査)

県立学校課長から説明した。

3 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後 1 時 16 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 42 号については委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 42 号 富山県民生涯学習カレッジ運営会議委員及び同新川・富山・高岡・砺波地区センター
運営会議委員任命の件

5 議事

報告事項について

報告事項（1）関係

〔山崎委員〕

- ・繰越明許費の補正というのがあったが、今年度中に実施できなくて翌年度に持ち越すという意味か。

〔教育長〕

- ・正確に言うと、今年度中に終わらない可能性があるのですが、来年度に予算を持ち越すというものとご理解いただければと思う。終わらないことが確定しているわけではなくて、リスクを見ているというもの。

〔山崎委員〕

- ・修繕費、設備充実費というのはとても大事だと思うが、今年度完結する部分の額の割合というのはどれくらいか。

〔教育企画課長〕

- ・完結するものとししないものということか。手元に資料がないので後程調べてお答えする。

報告事項（3）関係

〔山崎委員〕

- ・今年度も、就職を希望する者の多くが早い段階で内定をもらっており、非常に喜ばしい結果となっているが、就職の希望者数が昨年度に比べると、私立を除けば県立の方でかなり減っているのではないかと見て見ているのだが、そのあたりはどうなのか、何か理由というものはあるのか。

〔県立学校課長〕

- ・特に理由等は把握していない。

〔教育長〕

- ・50名程度減っているわけだが、その時々々の誤差の範囲という風にして理解している。元々、上級学校への進学を目指す生徒も多いので、こういった形になっている。一方でよく問題になるのが、求人は非常に高い倍率をいただいているなかで、地元の産業界の担い手の確保という意味で、もちろん大卒の方も対象ではあるが、高校生に対する求人というものに対するお答えが十分でないということである。前に皆さんにもお話を聞いていただいたと思うが、高校再編の関係で、総合教育会議で事前に有識者の方々からご意見を伺った。経済界の方々から多々あったのがこのことについてである。結局自分のところが求人を出しているのに、三回続けて袖にされた。どうにかしてこの部分を高校再編のなかで配慮してもらえないかという話があった。一方で5月のときに、中学生の子どもたちの意向を聞いてみると、やはり普通科志向が強い。公立志向で普通科志向が強い傾向があるので、今のところは大体70%を県立でやっているところだが、その中で普職比率は大体2:1で行っている。これを引き続き維持していくのではないかと、議会の中でもお答えさせていただいている。その昔7:3教育というのがあり、普通科3、職業科7という時代がだいぶ昔にあった。子どもたちの意向を踏まえると、そういった形にはなかなかできないと思っている。その中でもこういう数字はキープしていかないと、担い手の問題が大変大きくなってきており、人手不足もある。

〔山崎委員〕

- ・県立高校の卒業予定者数が昨年に比べて40名ほど増えている中で、就職希望者が昨年よりも45名ほど減っている。片や増えて片や減っているのが気になった。

〔藤重委員〕

- ・未内定者の多い学校というのは普通科もしくは職業科どちらになるのか。

〔県立学校課長〕

- ・かなりばらけてはいるが、多い学校ということではやはり定時制である。

〔鳥海委員〕

- ・求人は結構たくさんあるということだが、現時点で207人就職内定していないという状態。求人があるのに就職できていないというのはどういう理由になるのか。

〔県立学校課長〕

- ・9月に就職試験が始まるのだが、まずは1回目、1人1社ということで応募して受検することになる。残念ながら不合格だった者については、順次また検査を受けていくことになるが、先程申し上げたように、11月以降は1人複数社応募していくことも可能になるので、順次、新たに企業の方を受検する生徒や、公務員試験を受けようと考えている生徒などもある。

〔鳥海委員〕

- ・最初に1人1社という制限があるというわけか。

〔県立学校課長〕

- ・一番最初はそうである。

〔教育長〕

- ・よく問題になるのが離職率。昔から7、5、3と言われている。高校だと5割で、本県の離職率は大体30%ほどである。全国的に見ても低いほうだが、その主な理由はやはり人間関係と、もう一つは仕事内容のミスマッチ。ミスマッチを防ぐために、受検をする際には、必ず現場を一回見なさいという指導をしている。ペーパーだけでなく、実際現場を見て、それで合うか合わないか。そういう風に指導もしており、最初のうちは門戸を狭くしているのだが、そういうことばかりも言ってもらえないので。そんな中でもミスマッチというのがやはり一番怖いので、いろんな人生があるから、必ずしも一つの職場で最後までというのを強制するつもりも毛頭ないが、できれば一つのところで頑張ってもらえたらと思う。例年は指導の中で、先生方もコーディネーターの方々も走り回ってくださる。その結果、県内高校卒業者の就職率は今年でいうと100%となったわけである。

午後1時30分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。